



# Electone® *STAGEA*®

## ELS-01/01C/01X バージョン 1.8 追加機能説明書

ELS-01/01C/01X (typeUも含む)のバージョン1.8へのバージョンアップにともない、ミュージックデータレコーダー (MDR)機能に関するいくつかの画面や操作が追加または変更されました。

本書をお手持ちのエレクトーン取扱説明書「7章」と読み替えてご使用ください。  
本書はELS-01/01C/01X typeU の画面を使用して説明しています。

### ■ MDRに追加/変更された機能

#### ● コピー機能の強化

1ソングずつのコピーに加え、フォルダーやメディア単位でもコピーできるようになりました。(35～37ページ)

#### ● ソング検索機能の追加

MDR画面内に[検索]ボタンが追加され、目的のソングをキーワードで検索できるようになりました。(12～14ページ)



# 7 ミュージックデータレコーダー (MDR)

## MUSIC DATA RECORDER

MDR (ミュージックデータレコーダー)は、USBフラッシュメモリーなどの外部メディアに、レジストレーションや演奏データを録音したり、録音したデータを再生/編集したりする機能です。別売のフロッピーディスクドライブ(UD-FD01など)を取り付けると、フロッピーディスクを使用することもできます。この章では、外部メディアとしてUSBフラッシュメモリーを使用する場合を例に、操作を説明します。

使用できる外部メディアについては、インターネット上のヤマハエレクトーンホームページ<<http://electone.jp/>>でご確認ください。また、ご使用前に8ページの注意事項をお読みください。

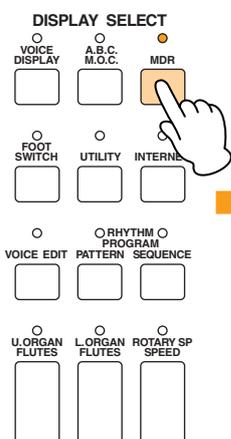
### この章の内容

1 MDR機能に入る.....3	8 レジストレーションなどのデータを読み込む..... 25
2 MDR画面の操作*.....4	9 ソングを再生する..... 28
• アイコン一覧.....6	• 特定のパートだけを再生する.....29
• USB TO DEVICE端子で使用上の注意..... 8	• 早送り/巻戻し/一時停止.....30
• USB記憶装置の取り扱いについて.....8	• 再生テンポを変更する.....30
• フロッピーディスクの取り扱いについて.....9	• リピート再生する.....31
3 メディアを初期化(フォーマット)する..... 10	10 譜面を表示する..... 33
4 ソングを選ぶ..... 11	• 譜面の表示内容や設定を変更する.....34
• ソング検索*..... 12	11 その他の機能(ツール)を使う..... 35
5 演奏を録音する..... 15	• ソングコピー*.....35
• 演奏を録音する..... 15	• ソングの削除.....38
• 演奏をやり直す..... 16	• XG変換機能.....39
• パートごとに録音する..... 16	• ELS→EL変換機能.....40
• パンチイン録音..... 18	• EL→ELS変換機能.....41
6 ソングに名前をつける..... 18	• ソング容量/メディアの残量の確認.....42
7 レジストレーションを保存する..... 21	
• 1つのソングに複数のレジストレーションを保存する... 21	
• レジストレーションだけを入れ替える..... 22	
• ネクストレジスト機能の設定..... 23	

\*付きの項目は今回追加、または変更された機能です。

## 1 MDR機能に入る

MDR機能を使って演奏やレジストレーションを録音したり、再生したりする場合は、すべてMDR画面で行ないます。[MDR]ボタンを押すと、MDR画面が表示されます。



### NOTE

画面に表示される項目や表示順は、接続してある外部メディア(USB記憶装置)によって異なります。

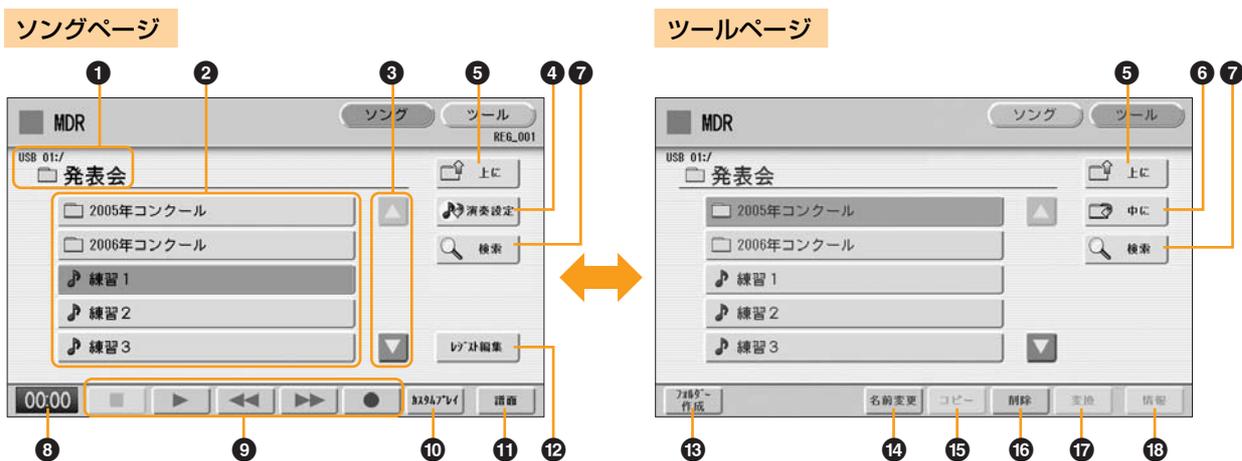
MDR操作中(ソングの再生中など)でも、パネル上の別のボタンを押すと、MDR画面を抜けてしまいます。その場合は、もう一度[MDR]ボタンを押すと、もとのMDR画面に戻ります。

この章では、MDR画面が表示されているものとして、各操作の手順を説明します。

## 2 MDR画面の操作

MDR画面には、ソングページとツールページがあります。ソングページはソングを選んで、再生/録音などの操作を行なうためのページです。ツールページはソングのコピーや削除などの編集を行なうためのページです。

ソングページとツールページは画面右上の[ソング]ボタンや[ツール]ボタンを押して切り替えます。



### ① 現在の位置

現在選択されているメディア/フォルダーが表示されます。「:/」の前にはメディアの種類が、「:/」の後ろにはフォルダー名が表示されます。

たとえば、「USB 01:/Folder1/」と表示されている場合は、「USBフラッシュメモリー内の「Folder1」という名前のフォルダー」であることを示します。

### ② メディア/フォルダー/ソングリスト

選択できるメディア/フォルダー/ソングが表示されます。選択できるフォルダーは最大120個です(画面上には5個表示されます)。

### ③ スクロールボタン

選択可能なメディア/フォルダー/ソングが多い場合、画面外に隠れていることがあります。その場合は、このボタンを使って、隠れているメディア/フォルダー/ソングを表示させます。

### ④ 演奏設定

選択されているソングの演奏に関する設定を表示/変更できます。

### ⑤ 上に

ひとつ上の階層のフォルダーまたはメディアへ移動します。たとえば、現在の位置が「USB 01:/Folder1/」(USBフラッシュメモリー内のFolder1というフォルダー)の場合は、このボタンを押すことで「USB 01:/」(USBフラッシュメモリー)に移動します。



関連ページ

ソングの演奏設定(12ページ)

**6 中に**

選択されているフォルダーまたはメディアの中へ移動します。たとえば、現在の位置が「USB 01:/Folder1/」(USBフラッシュメモリー内のFolder1というフォルダー)で、選択されているフォルダーが「SONG」の場合は、このボタンを押すことで「USB 01:/Folder1/SONG/」(USBフラッシュメモリー内のFolder1内のSONGフォルダー)に移動します。

**7 検索**

メディア内のソング/フォルダーをソング/フォルダー名から検索します。

**8 状態表示**

ソングの録音中、再生中に経過時間を表示します(59分59秒まで表示可能)。

**9 ソングコントロール**

ソングの録音、再生などをコントロールします。

**10 カスタムプレイ**

選択されているソングの演奏データだけを録音/再生します。このボタンを使うと、レジストレーションデータは読み込まれません。

**11 譜面**

選択されているソングの譜面を表示します。

**12 レジスト編集**

選択されているソングのレジストレーションデータを編集する画面を表示します。

**13 フォルダー作成**

現在表示されているメディア/フォルダー/ソングリストに、新しいフォルダーを作成します。120までのフォルダーを作成できます。このボタンを押すと、フォルダー名を設定する画面が表示されます。フォルダー名をつけて[OK]ボタンを押すと、新しいフォルダーを作成できます。フォルダー名の付け方は、ソングの名前の付け方と同じです。18ページをご覧ください。

**14 名前変更**

選択されているフォルダー/ソングの名前を変更します。

**15 コピー**

選択されているメディア/フォルダー/ソングをコピーします。

**16 削除**

選択されているフォルダー/ソングを削除します。

**17 変換**

選択されているソングを他のエレクトーンや機器で再生できるように変換したり、他のエレクトーンで録音されたソングをこのエレクトーン用のソングに変換したりします。XG変換、ELS→EL変換、EL→ELS変換が選べます。

**18 情報**

メディアが選択されているときは空き容量(残量)を、ソングが選択されているときは容量や曲名、作曲者名などを表示します。表示される内容は、ソングによって異なります。

**関連ページ**

ソング検索(12ページ)

**関連ページ**演奏を録音する(15ページ)  
ソングを再生する(28ページ)**関連ページ**

譜面を表示する(33ページ)

**関連ページ**レジストレーションを保存する  
(21ページ)  
レジストレーションなどのデータを読み込む(25ページ)**関連ページ**ソングに名前をつける  
(18ページ)**関連ページ**

ソングコピー(35ページ)

**関連ページ**

ソングの削除(38ページ)

**関連ページ**XG変換機能(39ページ)  
ELS→EL変換機能(40ページ)  
EL→ELS変換機能(41ページ)**関連ページ**ソング容量/メディアの残量の  
確認(42ページ)  
プロテクトソングの詳細表示(27  
ページ)

## メディアが見つからないときは：

- 1 グレー表示になって押せなくなるまで、 上に ボタンを数回押します。メディアがリスト表示されます。表示されているメディアが多い場合、画面外に隠れていることがあります。その場合は、スクロールボタン(4ページ ③)を使って、隠れているメディアを表示させます。

## ソングが見つからないときは：

- 1 現在の位置(4ページ ①)を確認します。
- 2 目的のソングが、現在表示されているフォルダー内にある場合は、スクロールボタン(4ページ ③)を使って隠れているソングを表示させます。目的のソングが別のフォルダー内にある場合は、 上に ボタンや  中に ボタンを使って、目的のソングが入っているフォルダーに移動します。目的のソングがどこにあるかわからない場合は検索機能(12ページ)を使ってソングを探します。



### NOTE

フォルダーを選択したときに、レジストレーションの初期化を促すメッセージが表示された場合は、[初期化]ボタンを押してください(メディアは初期化されません)。このメッセージはプロテクトソングを呼び出しているときに表示されます。

## アイコン一覧

ソングを選ぶときに表示される画面で使われているアイコンです。それぞれのアイコンの意味は次のようになっています。



USBフラッシュメモリーやフロッピーディスクといったメディアであることを示します。メディア/フォルダー /ソングリストで表示されます。



フォルダーであることを示します。



メディアにライトプロテクトまたはコピープロテクトがかかっていることを示します。



演奏データが入っていることを示します。



XGソングであることを示します。



プロテクトソング(オリジナル)であることを示します。詳しくは26ページをご覧ください。

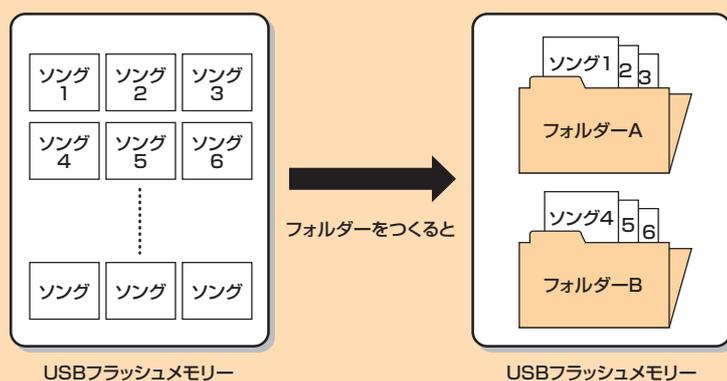


プロテクトソング(編集)であることを示します。詳しくは26ページをご覧ください。

## メディア内の構成：フォルダー/ソング/ファイル

### フォルダーとは

フォルダーとは、メディア内のソングを整理するための保管場所です。容量の大きいUSBフラッシュメモリーには、数百ものソングを保存することができるので、多くのソングを保存した場合には、呼び出したいソングを探すのが大変になります。そこで、フォルダーをつかってソングを管理することで、メディア内のソングを管理しやすくします。



### ソングとは

ソングとは、本来は「曲」という意味ですが、エレクトーンでは、外部メディアに保存する1曲分のデータのことをソングと呼びます。1つのソングには、レジストレーションデータや演奏を録音したデータなどがファイルとして保存されています。

### ファイルとは

エレクトーンでは、ソングを構成するデータのひとつひとつを「ファイル」と呼びます。つまり、ひとつのソングにはレジストレーション情報のファイル、演奏情報のファイルといった複数のファイルが入っているのです。MDR機能を使って保存されたソング内には、以下のファイルがあります。(拡張子とは、Windowsなどのコンピュータがファイル形式を識別するための識別子です。拡張子は、エレクトーンの画面上には表示されません。)

#### ソングに保存されるファイルの種類

保存されるファイル	ファイルの内容	拡張子
演奏データ	エレクトーンで録音した演奏が入っているファイルです。	.mid
レジストレーションなどのデータ	レジストレーションだけでなく、ユーザーボイスやユーザーリズム、リズムシーケンス、レジストレーションシフトなどのデータが含まれているファイルです。	.b00
XG変換後のデータ	演奏を録音したデータを、XG機器で再生できる形式に変換したファイルです。	.mid

このほかに、メディアにどんなファイルが入っているか、また、各フォルダーにどんなデータが入っているのかを管理するための管理ファイル(拡張子：.nam)があります。管理ファイルは、各フォルダーに1つ、自動的に作成されます。(管理ファイルは、エレクトーンの画面上には表示されません。)

## USB TO DEVICE端子ご使用上の注意

本機にはUSB TO DEVICE端子があります。USB TO DEVICE端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。



USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

### ■ 使用できるUSB機器

- USB対応の記憶装置(フラッシュメモリー、フロッピーディスクドライブ、ハードディスクドライブなど)
- USBハブ
- USB-LANアダプター

動作確認済みUSB機器については、インターネット上のヤマハエレクトーンホームページで最新情報をご確認のうえ、ご購入ください。

<http://electone.jp/>

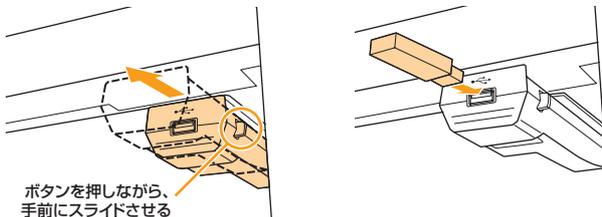


上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

### ■ USB機器の接続

- USB TO DEVICE端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意してしっかりと差し込んでください。

USBユニット(UD-USB01)を取り付けている場合



ELS-01 typeUの場合、およびUSBユニット(UD-USB01)を取り付けている場合: 演奏中は、USBユニットを奥へスライドさせておいてください。手前に引き出したままだと、手などがぶつかってけがをしたり、USB機器が破損するおそれがあります。

- 1つのUSB TO DEVICE端子に2台以上のUSB機器を同時に接続したい場合は、電源付き(セルフパワー)のUSBハブをご使用ください。USBハブは、USBユニット(UD-USB01)に接続しないで、USB TO DEVICE端子に直接差し込んでください。USBハブは2台まで使用可能です。USBハブの使用中にエラーメッセージが出た場合は、本機からUSBハブを抜き、本機の電源を入れ直した上で、再度USBハブを接続してください。
- 本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

## USB記憶装置の取り扱いについて

本機にUSB記憶装置(USB対応の外部メディア)を接続すると、楽器本体で制作したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。



USB記憶装置としてCD-R/RWドライブを接続した場合、CD-ROMのデータ(MIDIデータ)を楽器本体で再生/再現することはできますが、楽器本体のデータを保存してCD-ROMを作ることはできません。

### ■ 接続できるUSB記憶装置の数

同時に使用できるUSB記憶装置は、4台までです。(USBハブを使用した場合でも、同時に使用できる記憶装置は4台までです。) また、1台のUSB記憶装置について4ドライブまで認識ができます。

### ■ USB記憶装置のフォーマット

USB記憶装置の中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なものがあります。USB TO DEVICE端子にUSB記憶装置を接続したとき(またはUSB記憶装置にフロッピーディスクなどのメディアを挿入したとき)に、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください(10ページ)。



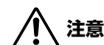
フォーマットを実行すると、そのメディア内のすべてのデータは消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。特に複数のUSB記憶装置を接続しているときは、ご注意ください。

### ■ 誤消去防止

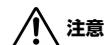
USB記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSB記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

### ■ USB記憶装置の抜き差し

USB記憶装置を外すときは、保存/コピー/削除などデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。



保存/コピー/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置を接続した直後(マウント中)は、USBフラッシュメモリーを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり、電源を切ったりしないでください。楽器本体/メディアのデータが壊れるおそれがあります。ランプ付きのUSBフラッシュメモリーの場合、アクセス中はランプが点滅します。



USB記憶装置の頻繁な電源のオン/オフや抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。

### ■ データのバックアップ

USB記憶装置などの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSB記憶装置にバックアップを作成/購入し、保存しておかれることをおすすめします。

# フロッピーディスクの取り扱いについて

もしお使いのエレクトーンに、フロッピーディスクドライブが  
ついていない場合は、別売のUD-FD01を取り付けることで、  
フロッピーディスクを使用できるようになります。

フロッピーディスク(ドライブ)をご使用いただく場合は、以下  
のことをお守りください。

## ■ 使用できるフロッピーディスクの種類

- 3.5インチの2DD、または、2HDフロッピーディスクが使用で  
きます。

## ■ フロッピーディスクのフォーマット

- 新しいディスクや他の機器で使っていたディスクは、そのままでは  
使えない場合があります。この機器のドライブに入れてもディス  
クが読めない場合は、フォーマット(初期化)をする必要があり  
ます。フォーマットの方法は10ページをご覧ください。なお、  
フォーマットを行なうとディスク内のすべてのデータは消去され  
ます。あらかじめ、データの有無をご確認ください。



この機器でフォーマットしたフロッピーディスクは、そのままでは他の  
機器で使えない場合があります。

## ■ フロッピーディスクの挿入/取り出し

### ● フロッピーディスクの挿入

- フロッピーディスクの中心に金属がある方を下にして、ディスク  
挿入口にカチッと音がするまで正しく差し込みます。



注意

フロッピーディスクドライブに、金属や紙片などの異物を入れないで  
ください。ディスクがこわれたり、ディスクドライブユニットが故障した  
りする原因になります。

### ● フロッピーディスクの取り出し

- あらかじめフロッピーディスクにアクセス中\*でないことを確認  
した上で、ディスク挿入口の右上にあるイジェクトボタンをしっ  
かりと奥まで押します。フロッピーディスクが押し出されるの  
で、取り出して(引き抜いて)ください。フロッピーディスクが途  
中で引っかかり取り出せなくなった場合は、無理に取り出そうと  
せず、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロ  
ッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んでからやり直  
してください。
- \* **アクセス中**：録音や再生、データ削除などの作業中を指します。  
また、電源が入っている状態でフロッピーディスクを挿入したと  
きも、楽器本体がディスクの内容を確認するために自動的にア  
クセス中になります。



注意

アクセス中にフロッピーディスクを取り出したり、楽器本体の電源を  
切ったりしないでください。ディスク内容がこわれるだけでなく、フ  
ロッピーディスクドライブの故障の原因になります。

- 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめディスクド  
ライブユニットから取り出してください。電源を切ったあと、フ  
ロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスク内部  
に汚れや変形が生じ、データの読み書きにエラーが生じる原因に  
なります。

## ■ 磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ディスクドライブユニットは高精度の磁気ヘッドを使用していま  
す。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁  
気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気  
ヘッドが汚れると、録音や再生にエラーが生じることがありま  
す。
- ディスクドライブユニットを良好な状態でご使用いただくため  
に、磁気ヘッドを定期的に(1カ月に1回程度)クリーニングして  
いただくことをおすすめします。



磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディ  
スク」をご使用ください。なお、取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品  
サービス拠点で、弊社推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお  
求めいただくこともできます。

## ■ フロッピーディスクについてのご注意

### ● フロッピーディスクの取り扱いと保管

- (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落と  
したり、物をのせたり、折り曲げたりしないでください。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極  
端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところに置か  
ないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らな  
いようにご注意ください。
- ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでくだ  
さい。
- 磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでく  
ださい。
- シャッターやディスク自体が変形しているようなディスクは、使  
用しないでください。
- フロッピーディスクにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らな  
いください。ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと  
貼ってください。

### ● 誤消去防止

- フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまわないよう  
にライトプロテクトタブ(書き込み禁止タブ)が付いています。大  
切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオ  
ン(タブの窓が開いた状態)にして、書き込みができないようにし  
てください。

逆に、データを保存する場合などは、ご使用前にディスクのラ  
イトプロテクトタブがオフになっていることをご確認ください。

### ● データのバックアップ

- フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータはバック  
アップとして予備のディスクに保存しておかれることをおすすめ  
します。



市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をご  
確認の上、お求めください。

## 3 メディアを初期化(フォーマット)する



### NOTE

USBフラッシュメモリーを使用する場合は、動作確認済みのものをお使いください。動作確認済みのUSBフラッシュメモリーについては、インターネットのヤマハエレクトーンホームページ<<http://electone.jp/>>でご確認ください。

新しいメディア(USBフラッシュメモリーなど)は、そのままでは使えない場合があります。この場合、メディアをフォーマット(初期化)する必要があります。

フォーマットとは、メディアをエレクトーンで使用できる形式にする作業です。フォーマットを実行すると、メディアの中のすべてのデータは消去され、新たにデータが記録できる状態になります。消去されたデータは永久に失われてしまいます。フォーマットを実行する前に、重要なデータが入っていないかどうかよくご確認ください。特に複数のメディアを接続しているときは、ご注意ください。

1 メディアを、向きを間違えないようにして、挿入口にしっかりと挿入します。

2 画面右上の[ツール]ボタンを押して、ツールページを表示させます。

3 グレー表示になって押せなくなるまで、 上に ボタンを数回押します。

4 フォーマットしたいメディアを選びます。

USBフラッシュメモリーをフォーマットする場合は[USB XX] (XXには数字が入ります)を、フロッピーディスクをフォーマットする場合は[USB-FD01]を選びます。



### NOTE

接続しているメディアの数によってUSB 01、USB 02などと表示されます。



### NOTE

フロッピーディスクドライブを接続しないと、画面に[USB-FD01]ボタンは表示されません。



5 [フォーマット]ボタンを押します。

画面に「フォーマットしますか?」というメッセージが表示されます。[フォーマット]を選ぶとフォーマットが開始されます。フォーマットが終了すると画面が手順4の表示に戻ります。[キャンセル]を押すとフォーマットせずに手順4の画面に戻ります。



### 注意

フォーマット中は、メディアを抜かないでください。

## 4 ソングを選ぶ

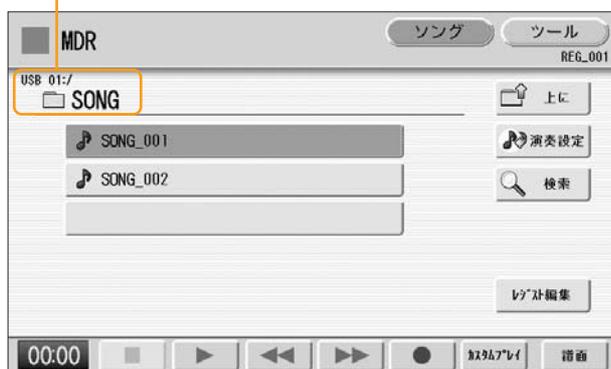
演奏データやレジストレーションデータを保存するときには、何も記録されていないソングを選びます。ソングを再生したり、ソングに名前を付けたりするときには、データが保存されているソングを選びます。

MDR画面には、現在選ばれているメディア/フォルダー内のソングが表示されています。表示されているソングの中から、目的のソングを選びます。

### 1 メディアを確認します。

画面左上に目的のメディアが表示されていることを確認します。

現在選ばれているメディア/フォルダー



目的のメディアが表示されていない場合は、6ページの「メディアが見つからないときは」で目的のメディアを選んでください。

### 2 選択したいソングのボタンを押します。

これからデータを録音したい場合は、何も書いてない(データの入っていない)ソングのボタンを押します。ソングのボタンがオレンジ色に変わり、選択できたことを示します。

すでにデータの入っているソングを選んで再生したい場合は、ソング名やアイコンを参考にして、目的のソングのボタンを押します。

データの入っているソング



データの入っていないソング



注意

アクセス中はメディアを抜かないでください。(ランプ付きのUSBフラッシュメモリーの場合、アクセス中はランプが点滅します。)

7

ミュージックデータレコーダー(MDR)



関連ページ

ソングに名前をつける  
(18ページ)  
アイコン一覧 (6ページ)



### 関連ページ

特定のパートだけを再生する  
(29ページ)  
再生テンポを変更する  
(30ページ)

## ソングの演奏設定

ソングページで、ソングを選択した状態で **演奏設定** ボタンを押すと、そのソングを再生したときにどのパートがどんなテンポで再生されるかを確認できます。



[▶] (再生)ボタンを押したときには、この画面で「PLAY」になっているパートだけが、表示されているテンポ(録音されたときの50%~200%の範囲)で再生されます。演奏データの入っていないソングの場合は、すべてのパートが「OFF」になっています。[パート保存]ボタンを押すと、各パートの再生状態を保存できます。(テンポの値は保存されません。)

## ソング検索

検索機能を使って目的のソングやフォルダーを探します。

- 1 検索したいソングやフォルダーが入っているメディアを楽器に挿入します。
- 2 検索したいソングやフォルダーが入っているメディアを選びます。



### NOTE

ソングやフォルダーが選ばれている状態で検索すると、そのメディア内のすべてから検索します。



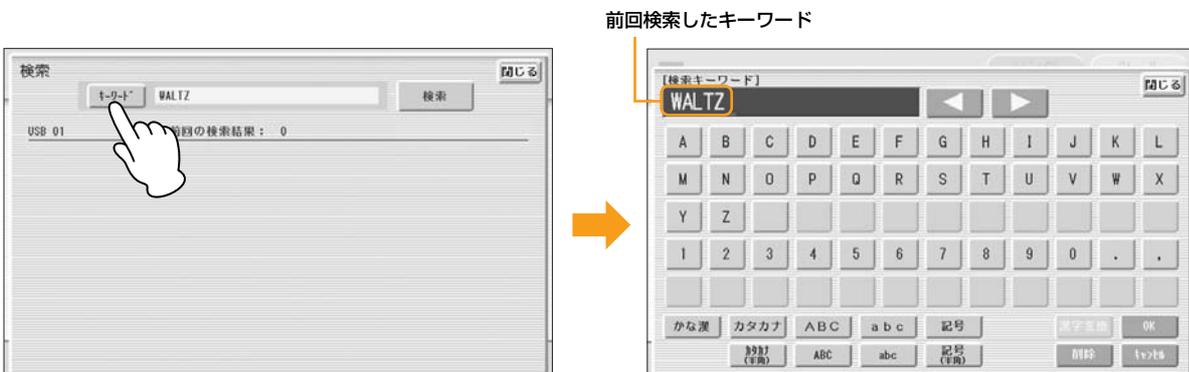
### 3 画面の[検索]ボタンを押します。



#### NOTE

前回検索した結果が表示されます。ただし一度電源を入れ直したり、一度メディアを抜いて差し直したり、メディアに書き込んだりした場合は表示されません。

### 4 画面の[キーワード]ボタンを押します。



### 5 検索したいソング名/フォルダー名を入力します。

必要に応じ、前回検索したキーワードを[削除]ボタンで削除します。そのあとで、今回検索したいソング名/フォルダー名を入力します。  
文字入力については18ページをご覧ください。



#### NOTE

検索では、大文字と小文字、全角と半角、カタカナとひらがなは同じ文字として扱われます。



#### NOTE

XGソングを検索する場合は「.mid」の拡張子を除いたファイル名だけを入力します。

### 6 [OK]ボタンを押します。

検索が実行され、実行中の結果が表示されます。



実行を中断する場合は[中断]ボタンを押します。

## 7 検索結果を確認します。

画面に検索結果が表示されます。



## 8 検索結果から目的のソング/フォルダーのボタンを押します。

自動的に検索画面が閉じ、ソング/フォルダーが選ばれます。

目的のソング/フォルダーが選ばれなかった場合は手順4に戻り、別のソング名/フォルダー名で検索してみてください。

## 5 演奏を録音する

### 演奏を録音する

演奏を録音する前に、あらかじめ、レジストレーションメモリの設定など、録音したい曲の演奏の準備をしておきましょう。



注意

録音中は、絶対に電源を切ったり、メディアを抜いたりしないでください。

1 メディアを挿入口に挿入します。

2 演奏を録音するソングを選択します。

データの入っていないソングを選びます。ソングの選択については、11ページをご覧ください。

データの入っているソングに上書きしたい場合は、38ページ「ソングの削除」で、あらかじめ上書きしたいソングを削除しておいてください。

3 右上の[ソング]ボタンを押してソングページを表示させ、画面の[●](録音)ボタンを押します。

下の画面が表示され、録音待機状態になります。



NOTE

録音開始前に「メディアの空き容量が不足しています。」というメッセージが表示された場合は、[キャンセル]ボタンを押したあと、[■](停止)ボタンを押して、MDR画面に戻り、不要なソングを削除するか、新しいメディアを挿入してください。空き容量が少なくても、そのまま録音を続行する場合は[録音続行]ボタンを押します

4 画面の[▶](再生)ボタンを押します。

画面左下に砂時計が表示され、レジストレーションデータの保存中であることを示します。

5 砂時計の表示が消えたことを確認してから、演奏を開始します。

6 演奏が終わったら、画面の[■](停止)ボタンを押します。

録音を終了し、演奏データをメディアに書き込むと、MDR画面に戻ります。録音したソングには、「SONG\_XXX (XXXには数字が入ります)」と表示され、そのソングにデータが録音されたことを示します。録音したソングには、名前をつける(変更)ことができます。ソング名の変更については、18ページをご覧ください。



注意

砂時計や書き込み中のメッセージが表示されている間は、メディアを抜かないでください。

## 演奏をやり直す

演奏をミスした場合には、はじめからやり直すことができます。

- 1 録音中に、画面の[●] (録音) ボタンを押します。  
録音が中止され、曲の頭に戻ります。



### NOTE

[■] (停止) ボタンを押すと、録音のやり直しをやめて、直前の演奏が録音されます。

- 2 [▶] (再生) ボタンまたは[カスタムプレイ] ボタンを押します。  
ふたたび録音が始まります。前もって録音されたデータは、すべて新しいデータに置き換わります。

## パートごとに録音する

上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の、それぞれのパートの演奏や、レジストレーションの変更やエクスペリションペダルの操作といったコントロールデータを、個別に記録することができます。また、リードボイス1とキーボードパーカッションは、上鍵盤/下鍵盤の演奏と独立して録音することもできます。ここでは、はじめに下鍵盤とペダル鍵盤の演奏を録音し、次に上鍵盤の演奏を録音する手順を例に説明します。

- 1 15ページ「演奏を録音する」の手順1～3の操作を行ないます。
- 2 録音したいパートを選択します。  
各パートボタンを押すたびに、そのパートのPLAY/OFF/RECが切り替わります。録音したいパートを「REC」にし、録音したくないパートを「OFF」または「PLAY」にします。

- **PLAY** : すでに録音してあるパートを再生します。
- **OFF** : 録音や再生を行ないません。
- **REC** : 録音します。

### NOTE

キーボードパーカッションを録音する場合は、パネル上のKEYBOARD PERCUSSION [1]または[2]ボタンがオンになっていることを確認してください。

上鍵盤をRECにすると、上鍵盤の音群(リードボイス1も含む)の演奏が録音されますが、リードをRECにすると、リードボイス1の演奏だけを録音することもできます(リード分離)。上鍵盤とリードを同時にRECにすることはできません。下鍵盤とキーボードパーカッションも同様です。

下のように設定すると、下鍵盤とペダル鍵盤の演奏だけをパート録音できます。



#### NOTE

演奏中のレジストレーションの変更やエクスプレッションペダルの操作も一緒に録音するために、コントロールも「REC」に設定しておくことをおすすめします。

**3** 画面の[▶](再生)ボタンを押し、砂時計の表示が消えたら演奏を開始します。

**4** (下鍵盤とペダル鍵盤の)演奏が終了したら、画面の[■](停止)ボタンを押します。

これで(下鍵盤とペダル鍵盤の)パート録音ができました。

次に、録音しなかった(上鍵盤)パートの録音を行ないます。

**5** 画面の[●](録音)ボタンを押します。

上書きするかどうか確認を求めるメッセージが表示されます。[上書き]を選ぶと、録音待機中の画面が表示されます。

**6** 録音したいパートを選択します。

新たに録音したいパート(ここでは上鍵盤)を「REC」にします。また、手順2で録音したパート(ここでは下鍵盤とペダル鍵盤)を「PLAY」にすると、さきほど録音したデータが再生され、再生音を聞きながらほかのパートを録音できます。

**7** 選択されているパートの再生テンポを変更します。

再生テンポは50%~200%の範囲で設定できます。ソングに入っているもとのテンポが100%で表示され、それよりも大きい数値にすると速く、小さい数値にすると遅くなります。

**8** 新しいパートを録音するために、画面の[カスタムプレイ]ボタンを押します。

すでに録音したパート(下鍵盤とペダル鍵盤)の再生が始まりますので、それに合わせて新規のパート(上鍵盤)の演奏を始めます。

[カスタムプレイ]ボタンは、レジストレーションデータ以外のデータを録音/再生する場合に使います。レジストレーションデータは手順3ですでに記録されていますので、すぐに録音できる状態になります。

前回録音したソングの最後まで行くと、MDRは自動的にストップします。重ねて録音するパートの長さは、その前に録音したパートの長さ以上にはなりません。



#### NOTE

一度変更したテンポをもとの状態(100%)に戻すには、テンポ表示の下にある[リセット]ボタンを押します。

## パンチイン録音

録音したソングの一部だけを録音し直すことができます。パートを選択することによって、特定のパートだけをパンチイン録音することもできます。



### NOTE

休符と休符ではさまれたフレーズごとに、パンチイン録音すると便利です。

- 1 **パンチイン録音したいソングを選びます。**  
ソングの選択については、11ページをご覧ください。
- 2 **[▶](再生) ボタンを押して、ソングを再生します。**
- 3 **録音し直したい位置で、[■](一時停止) ボタンを押します。**  
ソングが一時停止状態になります。
- 4 **[●](録音) ボタンを押します。**  
録音画面が表示され、録音待機状態になったことを示します。
- 5 **録音をやり直したいパートを「REC」に設定し、それ以外のパートは「PLAY」に設定します。**
- 6 **[▶](再生) ボタンを押して録音を開始します。変更したい部分だけを演奏します。**
- 7 **録音し直したい部分の演奏が終わったら、速やかに[■](停止) ボタンを押して録音を終了します。**

## 6 ソングに名前をつける



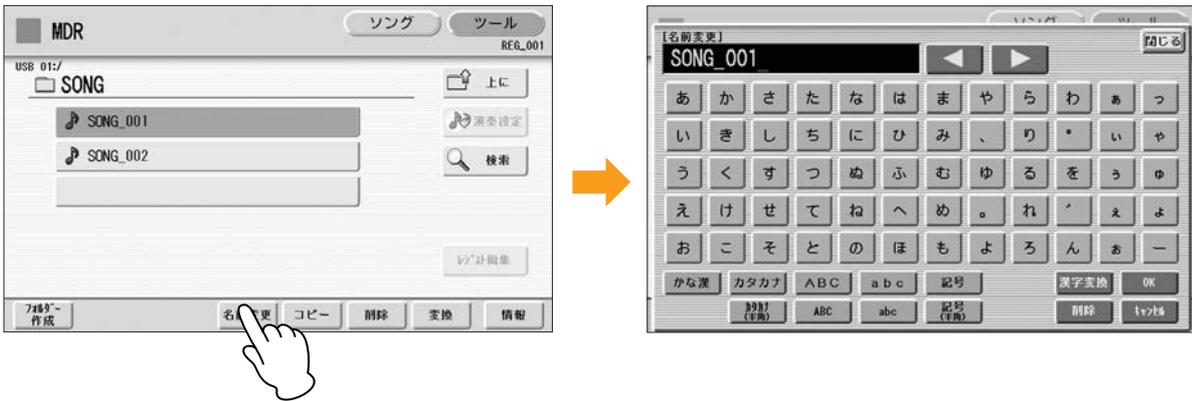
### NOTE

XGソングのソング名をつける場合、拡張子(.mid)は変更できません。

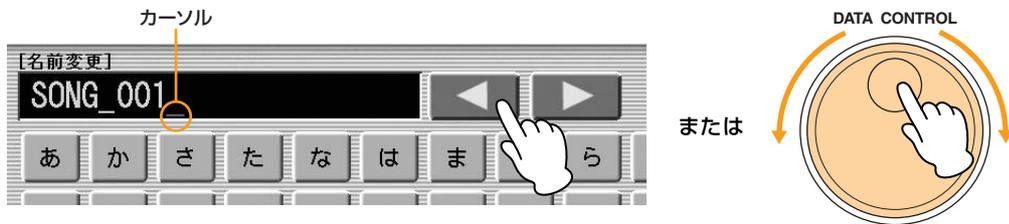
演奏やレジストレーションを録音したソングに名前を付けることができます。曲名や、録音した日付などをソング名にしておくとう便利です。ただし、EL-900などのELシリーズで作成したソングの名前を変更することはできません。

- 1 **名前を変更したいソングを選びます。**  
ソングの選択については、11ページをご覧ください。
- 2 **画面右上の[ツール] ボタンを押して、ツールページを表示させます。**

- 3 画面の[名前変更]ボタンを押します。  
以下の文字入力画面が表示されます。



- 4 [◀][▶]ボタンまたはデータコントロールダイヤルを使って、文字を入力したい位置にカーソルを移動します。



- 5 文字種選択のボタンで、入力したい文字種を選びます。



**NOTE**

言語設定を「ENGLISH」(英語)にしている場合、ひらがなやカタカナは入力できません。

- 6 入力したい文字を押します。  
最大で25文字(半角文字の場合は50文字)まで入力することができます。文字種を「かな漢」にしているときは、漢字変換もできます。漢字変換については次のページをご覧ください。



**NOTE**

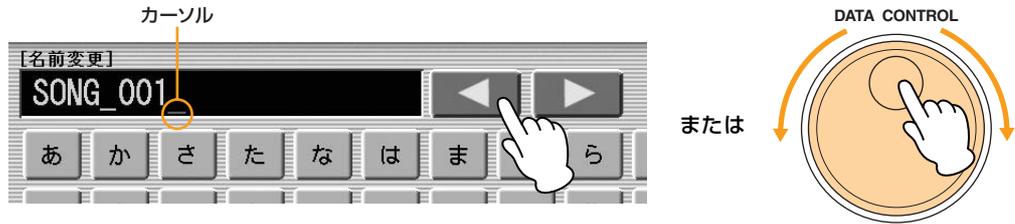
XGソングのソング名は最大で全角23文字です。

- 7 名前を決めたら[OK]ボタンを押して名前を確定します。  
文字入力画面が閉じ、ツールページの表示に戻ります。



## 入力した文字を削除するには：

- 1 削除したい文字にカーソルを移動します。



- 2 画面右下の[削除]ボタンを押します。  
カーソルの位置にある文字が一文字だけ削除されます。



## 漢字変換をするには：

- 1 入力した文字列が反転表示されているときに[漢字変換]ボタンを押します。  
反転表示の範囲が漢字に変換されます。候補の漢字が出てこない場合は、[漢字変換]ボタンを何度か押すと、次の候補が表示されます。
  - ・文節(反転表示の範囲)を変えたいときは、[◀][▶]ボタンまたはデータコントロールダイヤルを使います。
  - ・反転表示の文字をすべて一度に消したいときは、[キャンセル]ボタンを押します。
- 2 [OK]ボタンを押すか、次の文字を入力すると、漢字が確定します。漢字に変換された文字列をひらがなに戻したいときは、[削除]ボタンを押します。



### NOTE

ソングの表示順序は、記号→数字→アルファベット→カナ/かな→漢字/その他の記号の順に並びます。

ただし、先頭1文字目の半角\*(アスタリスク)はその対象になりません。

ソング名やフォルダー名をつけて[OK]ボタンを押すと、「入力されたファイル名は使用できません」というメッセージが表示されることがあります。その場合は、別の名前を入力し直してください。

また、コンピューターでファイル名やフォルダー名を編集するときには、以下のファイル名やフォルダー名は使用しないでください。エレクトーンの動作が不安定になったり、ファイルやフォルダーが自動的に削除されたりします(xxには数字が入ります)。

MDR_xx.EVT	ELS_SONG.NAM	MDR_xxx.TMP	TMP
MDR_xx.MID	MDR_xxx.MID	REG_xxx.TMP	TMP.E02
MDR_xx.Bxx	REG_xxx.B00	ELS_SONG.TMP	
MDR_xx.Vxx	SONG_xxx	SONG_xxx.C02	
SONG.NAM			

## 7 レジストレーションを保存する

演奏データを録音せずに、レジストレーションなどのデータだけを記録することもできます。ここで記録されるデータは、レジストレーションメモリーの設定やレジストレーションシフトだけでなく、ユーザーリズムや、リズムシーケンスデータ、そしてユーザーボイスやVAカスタムボイスも含まれます。

- 1 記録したいデータを設定し、記録させたいソングを選択します。**  
何も記録されていないソングを選びます。ソングの選択については、11ページをご覧ください。
- 2 ソングページの[レジスト編集]ボタンを押します。**  
レジスト編集画面が表示されます。
- 3 [保存]ボタンを押します。**  
レジストレーションデータの保存中であることを示すメッセージが、画面上に表示されます。メッセージが消えたあと、[閉じる]ボタンを押すと、レジストレーションが保存されたソングに、「SONG\_XXX」というソング名が表示されます(XXXには数字が入ります)。

### 1つのソングに複数のレジストレーションを保存する

1曲で16種類以上のレジストレーションを使用したい場合などに、1つのソングに複数のレジストレーションデータを記録できます。ここでは、すでにレジストレーションデータが記録されているソングに、別のレジストレーションを追加する方法を説明します。

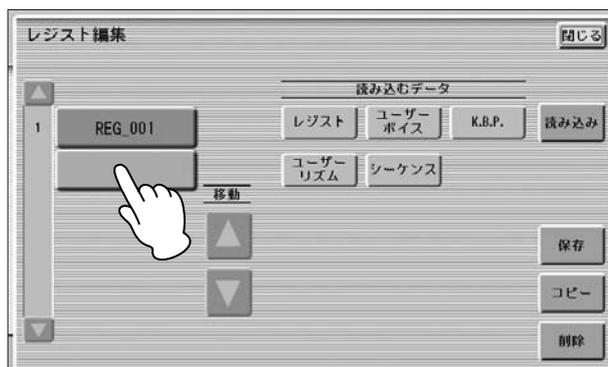
- 1 記録したいレジストレーションなどのデータを設定し、記録先となるソングを選択します。**  
すでにレジストレーションが保存されているソングを選択します。ソングの選択については、11ページをご覧ください。
- 2 ソングページの[レジスト編集]ボタンを押します。**  
レジスト編集画面が表示されます。画面内にはあらかじめ記録されているレジストレーション(REG\_001など)が表示されています。



関連ページ

ネクストレジスト  
レジストレーションシーケンス

- 3 表示されているレジストレーションの一番下にある、空白のボタンを押します。



- 4 [保存]ボタンを押します。  
あらかじめ保存されていたレジストレーションの下に、新しくレジストレーションが追加されます。  
ソングを再生したときには、ここで一番上に表示されているレジストレーションが読み込まれることになります。順番を入れ替えたい場合は、23ページ「ネクストレジスト機能の設定」をご覧ください。

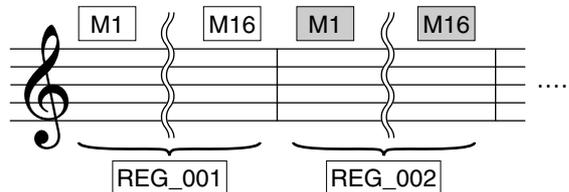
## レジストレーションだけを入れ替える

演奏データを変えずに、録音されている曲のレジストレーションだけを変えたいこともできます。

- 1 演奏データの入っているソングを選択します。  
ソングの選択については、11ページをご覧ください。
- 2 ソングページの[レジスト編集]ボタンを押します。  
レジスト編集画面が表示されます。画面内にはソングに保存されているレジストレーションが表示されます。
- 3 上書きしたいレジストレーションのボタンを押します。
- 4 [保存]ボタンを押します。  
「上書きしますか?」と確認を求めるメッセージが表示されます。[上書き]を選ぶと、レジストレーションデータが上書きされます。

## ネクストレジスト機能の設定

16以上のレジストレーションを使用する曲を演奏する場合は、1つのソング内に複数のレジストレーションデータを保存しておき、それらをつぎつぎに呼び出して再生できます。これをネクストレジスト機能といいます。



ネクストレジスト機能を使うには、以下のどちらかの設定をしておく必要があります。

- レジストレーションシフトの設定をユーザーモードにして、シフトエンドにネクストレジストを選びます。
- レジストレーションシーケンスにネクストレジストを入力します。



### NOTE

ネクストレジストを使用すると、ユーザーボイスやVAカスタムボイスを読み込むときに、発音しない時間が生じることがあります。

**1** 1曲で使用したい複数のレジストレーションを、1つのソングに保存します。レジストレーションの保存については、21ページの「1つのソングに複数のレジストレーションを保存する」をご覧ください。

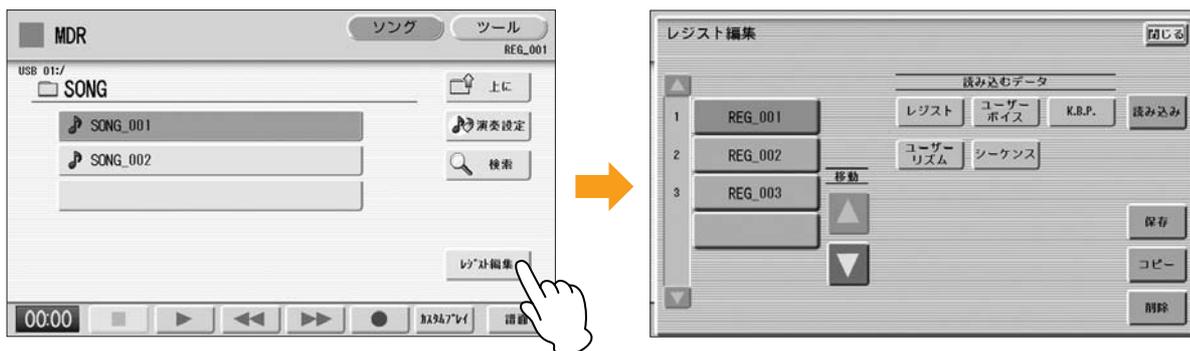


### NOTE

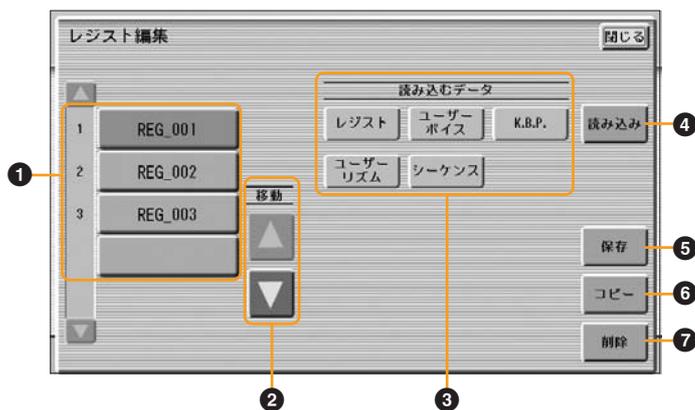
リズム再生中にネクストレジストを使用すると、シーケンスデータやユーザーリズムは切り替わりません。

**2** ソングページで、ネクストレジストを設定したいソングを選びます。ソングの選択については11ページをご覧ください。

**3** [レジスト編集]ボタンを押して、レジスト編集画面を表示させます。



**4** レジストレーションを、呼び出したい順番に並べます。画面上でレジストレーションを選択したあと、移動   ボタンや、[コピー]、[削除]のボタンを使って、レジストレーションの順番を編集します。選択されたレジストレーションが移動/コピー/削除されます。



### ① レジストレーションリスト

編集したいレジストレーションを選びます。選ばれたレジストレーションはオレンジ色になります。5つ以上のレジストレーションが保存されている場合は、上下のスクロールボタン ▲ ▼ で表示をスクロールできます。

### ② 移動

選ばれているレジストレーションを、1つずつ上または下に移動します。

### ③ 読み込むデータ

選ばれているレジストレーションをパネル上に呼び出すときに、呼び出したいデータだけをオンにします。25ページをご覧ください。

### ④ 読み込み

選ばれているレジストレーションをパネル上に呼び出します。呼び出したあとでレジストレーションメモリーのナンバーボタンを押すと、各ボタンに記憶されている設定が読み込まれます。

### ⑤ 保存

現在パネル上に呼び出されているレジストレーションを保存します。現在レジストレーションリスト①で選択されているレジストレーションに保存されます。

### ⑥ コピー

画面上で選ばれているレジストレーションをコピーします。コピーされたレジストレーションは、表示されているレジストレーションリストの一番下に追加されます。

### ⑦ 削除

画面上で選ばれているレジストレーションを削除します。

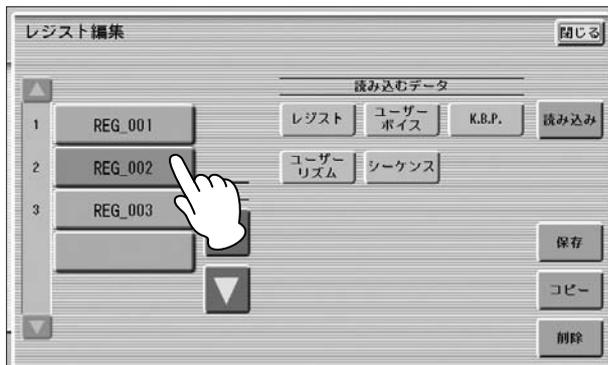
**5** 画面右上の[閉じる]ボタンを押して、ネクストレジスト機能の編集を終了します。

## 8 レジストレーションなどのデータを読み込む

ソングに記録されたレジストレーションなどのデータは、簡単にエレクトーンに読み込むことができます。また、レジストレーションに含まれている以下の5つの情報を、個別に読み込むこともできます。

- **レジスト**：レジストレーション(レジストレーションメモリーに保存されている情報)
- **ユーザーボイス**：ユーザーボイス、VAカスタムボイス
- **K.B.P.**：キーボードパーカッション
- **ユーザーリズム**：ユーザーリズム
- **シーケンス**：リズムシーケンス

- 1 メディアを挿入し、読み込みたいデータが入っているソングを選択します。  
ソングの選択については、11ページをご覧ください。
- 2 ソングページの[レジスト編集]ボタンを押します。  
レジスト編集画面が表示されます。
- 3 読み込みたいレジストレーションを選択します。



- 4 読み込むデータの5つのボタンで、読み込みたいデータをオンにし、読み込みたくないデータをオフにします。  
通常は、すべてオンにしておきます。



### NOTE

ネクストレジスト機能を使ってレジストレーションデータを読み込む場合は、ここでの設定に関係なくすべてのデータが読み込まれます。

**NOTE**

リズムの再生中にレジストレーションを読み込むと、シーケンスデータやユーザーリズムは読み込まれません。

**5**

[読み込み]ボタンを押します。

「読み込みますか?」というメッセージが表示されます。[読み込み]ボタンを押すと、手順4で選んだデータが読み込まれます。

[キャンセル]ボタンを押すと、データを読み込まずに手順4の画面に戻ります。

**6**

画面右上の[閉じる]ボタンを押して、レジスト編集画面を閉じます。

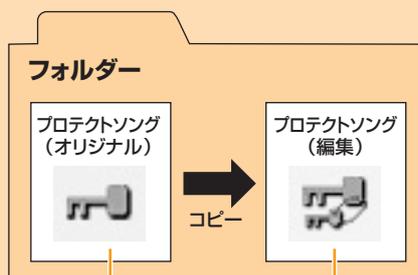
プロテクトソングの選択中は、読み込むデータのボタンが使用できない場合があります(ボタンがグレーアウトされて、選べなくなります)。これは、プロテクトソングの著作権を保護するためです。たとえば、プロテクトソングの一部だけを別のソングに読み込んで別のソングとして保存することはできません。

**プロテクトソングについて**

市販のソングデータの中には、誤消去防止、または著作権保護のため、上書きやコピーができないようにプロテクトがかけられているものがあります。このようなソングデータのことを「プロテクトソング」といいます。プロテクトソングは、動作確認済みのUSBフラッシュメモリーに保存できます。

プロテクトソングも、自分で作成したソングと同じように再生することができますが、XG変換やELS→EL変換はできません。また、プロテクトソングのレジストレーションを編集したり、上書き録音したりすることもできません。

プロテクトソングのレジストレーションを自分で変更したり、プロテクトソングのレジストレーションを使って演奏を録音したりするには、プロテクトソングを同じメディア/フォルダー内にコピーして、コピーしたソングを編集します(別のメディアや別のフォルダーにはコピーできません)。こうしてプロテクトソングをコピーした場合、もとのプロテクトソング(プロテクトオリジナルソング)を削除すると、コピーしたプロテクトソング(プロテクト編集ソング)も使用できなくなりますので、プロテクトオリジナルソングを削除してしまわないようご注意ください。



編集や録音が可能(プロテクトオリジナルソングと同じメディア/フォルダー内にあるときのみ再生/編集できる)

レジスト編集や上書き録音はできない

**注意**

プロテクトソングを編集する場合、レジストレーションを初期化してから、編集したいソングを選んでください。この操作を行わないと、編集後のソングが保存できない場合があります。

**注意**

プロテクトソングをコンピューター上で直接コピー/移動すると再生できなくなります。コンピューター上でプロテクトソングを移動する場合は、必ずミュージックソフトダウンローダーをお使いください。ミュージックソフトダウンローダーについては、インターネットホームページ<<http://www.music-eclub.com/eldata/>>をご覧ください。

## プロテクトソングの詳細表示

ELS-01/01C/01X用の市販データについて、作曲家や編曲者などの情報を、エレクトーンの画面上で確認できます。この機能を使うときは、言語設定を[日本語]にしておいてください。



関連ページ

画面に表示させる言語を選ぶ



NOTE

EL-900などの市販データをEL→ELS変換したソングについては、情報は表示されません。

### 1 MDR画面で、情報を確認したいプロテクトソングを選びます。

プロテクトオリジナルソングを選んでください。プロテクト編集ソングを選んだ場合は、情報は表示されません。ソングの選択については11ページをご覧ください。

### 2 ツールページの[情報]ボタンを押します。

画面上に曲名や作曲家名などの情報が表示されます。表示される内容は、ソングによって異なります。[次へ]ボタンを押すと、さらに情報を見ることができます。



### 3 [OK]ボタンを押して、情報表示を閉じます。

## 9 ソングを再生する

MDRでは、エレクトーンで録音したソングだけでなく、市販のXGソングデータや、コンピューターを使って作ったMIDIデータも再生することができます。

- 1 再生させたいソングを選択します。**  
ソングの選択については11ページをご覧ください。
- 2 画面の[▶](再生)ボタンを押してレジストレーションのデータを読み込みます。**  
画面上に砂時計が表示され、そのソングのレジストレーションデータを読み込んでいることを示します。  
1つのソングに複数のレジストレーションを保存した場合は、レジスト編集画面で一番上に設定されたレジストレーションが読み込まれます。  
演奏データの入っていないソングの場合、レジストレーションの読み込みが終了すると、ソング画面に戻ります。
- 3 レジストレーションデータの読み込みが終了すると、再生が自動的に始まりま**  
**す。画面上には、時間の経過を表す数字が表示されます。**  
通常は、ソングに録音してあるすべてのパートが再生されますが、特定のパートだけを再生したり、ミュートしたりすることもできます。詳しくは29ページをご覧ください。  
曲の最後まで再生されると自動的にストップします。曲の途中で[■](停止)ボタンを押して、再生を中止することもできます。



関連ページ

ネクストレジスト機能の設定(23ページ)



関連ページ

ソングの演奏設定(12ページ)

### カスタムプレイ

レジストレーションやほかのデータを読み込まないで、演奏データだけを再生したい場合は、[▶](再生)ボタンの代わりに[カスタムプレイ]ボタンを押します。すぐに再生がスタートします。



ネクストレジスト機能を使った曲を再生する場合には、[カスタムプレイ]ではなく[▶](再生)ボタンで再生をスタートさせてください。

## 特定のパートだけを再生する

MDRでは、演奏データの特定のパートだけを再生することもできます。特定のパートの練習をする場合などに便利です。

### 特定のパートだけを再生するには：

ソングの再生中や演奏設定画面で、画面の各パートボタンを押して、再生したいパートを「PLAY」、再生したくないパートを「OFF」に設定します。各パートボタンを押すたびに、そのパートのPLAY/OFFが切り替わります。[パート保存]ボタンを押すと、各パートの再生状態を保存できます。



関連ページ

ソングの演奏設定(12ページ)



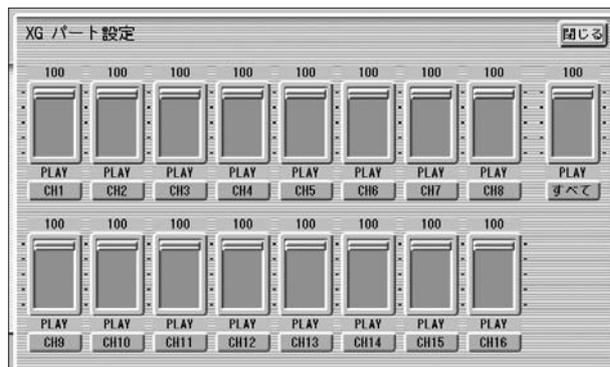
### XGソングデータで特定のパートだけを再生するには：

XGソングデータの再生中に、パート[XG]ボタンを押します。下のXGパート設定画面が表示されます。



関連ページ

XG変換機能(39ページ)



チャンネルボタン([CH1]など)を押して、各チャンネルの再生/ミュートを切り替えます。ボタンを押すたびに、PLAY/OFFが切り替わります。再生したいパートを「PLAY」に、再生したくないパートを「OFF」に設定します。

[すべて]ボタンを押すと、すべてのチャンネルのPLAY/OFFを一括して切り替えます。

スライダーを使って、各チャンネルの音量バランスを設定できます。チャンネルごとのボリュームを0～100の範囲で調節します。

[すべて]のスライダーでは、ソング全体のボリュームを調節します。

## 早送り/巻戻し/一時停止

再生中に、早送りや巻戻し、一時停止などができます。

### 早送り/巻戻しをするには：

画面上の[▶▶](早送り)または[◀◀](巻戻し)ボタンを押したままにします。再生は中断され、画面の時間表示も、早送り/巻戻しに従って変化します。

ボタンを押さえるのをやめても、再生は中断されたままです。早送り/巻き戻しをしたところから再生をスタートするには、[▶](再生)ボタンまたは[カスタムプレイ]ボタンを押してください。

### 一時停止するには：

再生中に、画面上の[■](一時停止)ボタンを押すと、ソングを一時停止します。

[▶](再生)または[カスタムプレイ]ボタンを押すと、一時停止したところから再生がスタートします。

## 再生テンポを変更する

メディアに録音されているデータを再生する場合には、パネル上のテンポダイヤルではテンポ変更できません。ソングの再生テンポは、MDR画面で変更します。ソングの再生中でも停止中でも、テンポを変更できます。

### テンポを変更するには：

画面のテンポ ▲ ▼ ボタンやデータコントロールダイヤルで、再生テンポを変更できます。50%~200%の範囲で設定できます。ソングに入っているもとのテンポが100%で表示され、それよりも大きい数値にすると速く、小さい数値にすると遅くなります。



## 変更したテンポをもとに戻すには：

一度変更したテンポをもとの状態(100%)に戻すには、テンポ表示の下にあるテンポ[リセット]ボタンを押します。



## リピート再生する

特定の曲だけを繰り返し再生したり、同じフォルダーに録音されている全部の曲を繰り返し再生することができます。

- 1 リピート再生したいソングを選択します。  
フォルダー内の全曲をリピート再生したい場合は、1曲目に再生したい曲を選択します。ソングの選択については11ページをご覧ください。
- 2 画面右上の[ソング]ボタンを押して、ソングページを表示させます。
- 3 画面上の  ボタンを押します。  
演奏設定画面が表示されます。



- 4 リpeatボタンを押して、リpeat再生の方法を選択します。  
ボタンを押すたびにリpeat再生の方法が変わります。



 (シングル)

現在選ばれている曲を繰り返し再生します。

 (すべて)

現在選ばれているフォルダー内のすべての曲を、順番に繰り返し再生します。

 (ランダム)

現在選ばれているフォルダー内のすべての曲を、任意の順番で繰り返し再生します。

 (停止)

リpeat再生しません。

- 5 画面右上の  ボタンを押して、画面を閉じます。

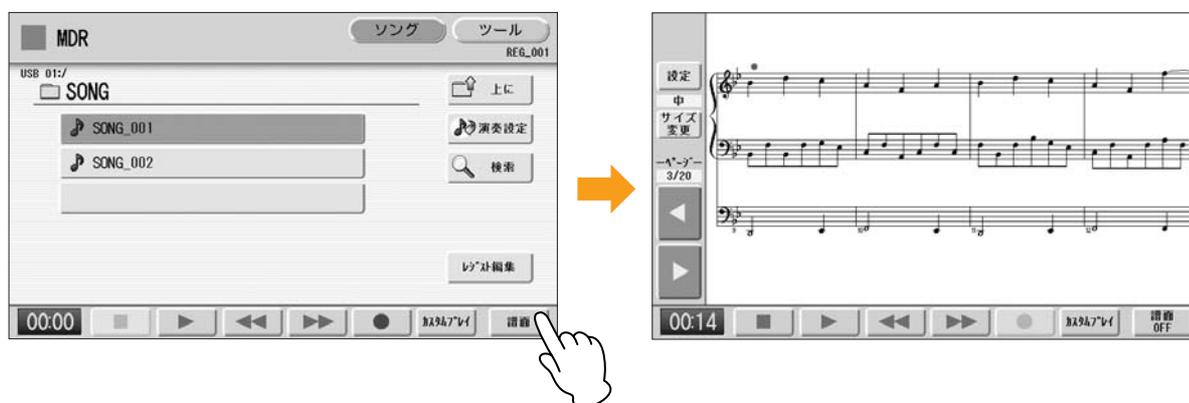
- 6 [▶](再生)ボタンを押すと、上で選んだ方法でリpeat再生がスタートします。

## 10 譜面を表示する

メディアに録音されている演奏データの譜面を表示することができます。また、表示する譜面サイズや内容を変更することもできます。ソングを再生すると、演奏箇所に合わせてカーソルが移動し、自動的に譜めくりされます。

**1 演奏データの入っているソングを選択します。**  
ソングの選択については、11ページをご覧ください。

**2 画面の[譜面]ボタンを押します。**  
現在選択されているソングの譜面が表示されます。



**3 画面の[▶](再生)ボタンを押してソングを再生します。**  
演奏箇所に合わせてカーソルが移動し、自動的に譜めくりされます。

画面の[●](録音)ボタンを押して譜面を表示したまま録音することもできます。

画面の[サイズ変更]ボタンを押して譜面サイズを変更することもできます。[サイズ変更]ボタンを押すたびに中→大→特大→小と変化し、さらに押すと中に戻ります。ただし、録音中は譜面サイズを変更できません。

**4 譜面を手でめくるには、ソングの再生を停止または一時停止し、画面のページ[◀]または[▶]ボタンを押します。**

前のページまたは次のページを表示することができます。また、ページ[▶]ボタンは左フットスイッチに割り当てることができます(34ページ)。

**5 譜面を閉じるには、画面の[譜面OFF]ボタンを押します。**



### NOTE

一部の譜面表示の許諾があるものを除き、プロテクトソングでは譜面が表示されません



### NOTE

変更した譜面サイズはレジストレーションメモリーに記録しておくことはできません。

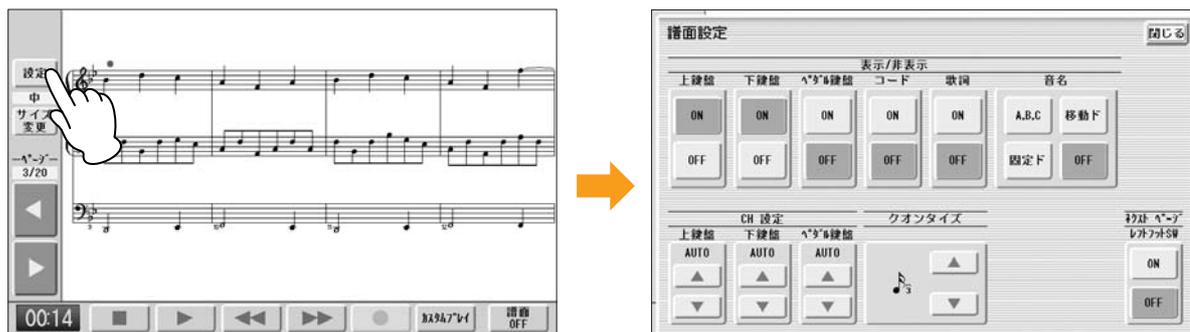
## 譜面の表示内容や設定を変更する

譜面に表示する内容を選んだり、表示/非表示を切り替えたりできます。また、左フットスイッチに譜めくりの機能を割り当てることができます。



ソングの録音中は譜面設定を変更することができません。[設定]ボタンは押せなくなります。

- 1 譜面を表示します。
- 2 画面の[設定]ボタンを押します。  
譜面設定画面が表示されます。



譜面表示についての設定はレジストレーションメモリーに記録しておくことはできません。ただし、ページめくり(左フットスイッチ)のオン/オフはすべてのレジストレーションナンバー共通のレジストレーションデータとして、USBフラッシュメモリーなどに保存できます。



音名を[移動ド]にすると、各調の主音がドとして表示されます。



クオンタイズについて

- 3 譜面に表示する内容を変更します。  
[ON]または[OFF]ボタンで各部分の表示/非表示を選べます。ただし、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤のうち、少なくともひとつが自動的に[ON]になります。  
音名は、[OFF]、[A, B, C]、[固定ド]、[移動ド]から選べます。  
CH設定は、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤に割り当てるチャンネルを[▲]または[▼]ボタンを使って選べます。また、[▲]または[▼]ボタンを押したあと、データコントロールダイヤルを回して選ぶこともできます。[AUTO]を選ぶと、曲に応じて自動的にチャンネルが割り当てられます。  
クオンタイズは、[▲]または[▼]ボタンを使って選べます。また、[▲]または[▼]ボタンを押したあと、データコントロールダイヤルを回して選ぶこともできます。細かい音符を選ぶほど、譜面表示が正確になります。

ネクスト ページ レフトフットSWを[ON]にすると、左フットスイッチで次のページへ譜めくりできます。譜面表示中に画面のページ[▶]ボタンを押すのと同じです。左フットスイッチにリズム、グライド、ロータリースピーカーの機能を割り当てている場合は、この設定がオンのときに左フットスイッチを押すと、割り当てられている機能と譜めくりの両方が機能します。

- 4 変更が終わったら、画面の[閉じる]ボタンを押して譜面設定画面を閉じます。

## 11 その他の機能(ツール)を使う

ソングをコピーしたり削除したり、あるいはソングの容量を確認したりなどさまざまな機能があります。MDR画面のツールページで設定します。

### ソングコピー

1つのソングをコピーしたり、ソングが入ったフォルダーごとコピーしたりする機能です。同じメディア内でも、異なったメディア間でもコピーできます(EL-900などのELシリーズのソングは1曲ごとにはコピーできません)。

メディアの容量が足りない場合はコピーできませんのであらかじめご確認ください。

#### プロテクトソングの移動

プロテクトソングは、同一フォルダー内ではコピーできますが、別のメディアや別のフォルダーにはコピーできません。コピー先として別のメディアやフォルダーを指定すると「移動します。」というメッセージが表示され、[移動]ボタンを押すと、プロテクトオリジナルソングとプロテクト編集ソングがいっしょに移動されます(元のフォルダーからはなくなります)。この場合、コピーではなく移動となります。

また、プロテクトのかかっているソングと、プロテクトのかかっていないソングの両方が混在しているフォルダーをコピーすると、プロテクトのかかっていないソングはコピーされますが、プロテクトのかかっているソングはコピーされず移動となります。

#### ソングコピーの一般的な操作：

同じメディア内でも、異なるメディア間でもソングコピーやフォルダーコピーができます。コピーしたいソングが入っているメディアと、コピー先となるメディアをあらかじめ挿入しておいてください。

##### <例>

#### 1つのメディア内でコピーする場合

ソングの入ったメディアを挿入します。

#### USBフラッシュメモリーから別のUSBフラッシュメモリーにコピーする場合

コピーしたいソングが入っているUSBフラッシュメモリーと、コピー先となるUSBフラッシュメモリーの両方をUSB TO DEVICE端子に挿入します。USB TO DEVICE端子が足りない場合は、セルフパワーのUSBハブをお使いください。ハブをお持ちでない場合、36ページの方法でコピーできます。

1 コピーしたいソング、フォルダーまたはメディアを選択します。  
ソングの選択については11ページをご覧ください。

2 画面右上の[ツール]ボタンを押して、ツールページを表示させます。



#### NOTE

コピー先に120曲のXGソングが存在している場合、XGソングはコピーできません。またコピー先にフォルダーが120個存在している場合、フォルダーはコピーできません。



#### NOTE

コピー先がルートの場合、ソング名やパス名が長いと、フォルダー/XGソング数が制限に達していても保存できない場合があります。



#### NOTE

コピーするフォルダーの中に、エレクトーンが扱えない形式のファイルが入っていた場合、そのファイルはコピーされません。



#### NOTE

プロテクトソングを同一フォルダー内にコピーした場合、コピー先のソングはプロテクト編集ソングになります。



#### NOTE

使用できるUSBハブについては、インターネット上のヤマハエレクトーンホームページ <<http://electone.jp/>>でご確認ください。



#### 注意

メディアはしっかりと奥まで差し込んで使用してください。しっかりと差し込んでいないと、データが失われるおそれがあります。

### 3 画面の[コピー]ボタンを押します。 コピー先選択画面が表示されます。



### 4 (必要に応じて)コピー先を変更します。 コピー先の変更については11ページをご覧ください。

### 5 [実行]ボタンを押してコピーを実行します。[キャンセル]または[閉じる]ボタンを押すと、コピーせずにもとの画面に戻ります。

コピー先のフォルダー/ソング名は、もとのフォルダー/ソング名と同じになります。コピー先に、もとのフォルダー/ソングと同名のフォルダー/ソングがある場合、たとえば元のソング名が「コピー元フォルダー/ソング名\_XXX」の場合、「コピー元フォルダー/ソング名\_YYY (YYYには数字が入ります)」というフォルダー/ソング名になります。フォルダー/ソング名を変更したい場合は、18ページをご覧ください。

XGソングデータの場合は、コピー先にある同名のXGソングを上書きするかどうか確認を求めるメッセージが表示されます。[上書き]を選ぶと、コピー先のXGソングデータが上書きされます。

#### フォルダーコピーの中断方法

フォルダーコピーの実行中にやむを得ず、中断したい場合は[中断]ボタンを押してください。

コピーが実際に中断されるのは、現在実行中のフォルダーをコピーしたあとになりますので、中断されるまでに時間がかかる場合があります。

中断後は、フォルダーやソングがどこまでコピーされたかを確認してください。

#### コピー先メディアとコピー元メディアが違う場合の操作：

通常は、コピー元メディアとコピー先メディアの両方をUSB TO DEVICE端子に接続して35ページの方法でコピーしますが、USB TO DEVICE端子に空きがない場合は以下の方法で1ソングずつコピーしてください。

この操作で、フォルダーごとのコピーはできません。

### 1 35ページの1～3の操作を行ないます。

### 2 グレー表示になって押せなくなるまで、 上に ボタンを数回押して、メディアのリストを表示させます。

#### 注意

コピー中(またはプロテクトソングの移動中)は、絶対に電源を切ったり、メディアを抜いたりしないでください。データが失われるおそれがあります。

#### NOTE

フォルダーをコピーする場合、コピー時間の目安が表示されます。実際のコピー時間は長くなる場合がありますのでご注意ください。

#### NOTE

メディアごとコピーする場合、コピー先のフォルダー名は"#MEDIA"になります。

#### NOTE

「階層が深すぎます」「パス名が長すぎます」などのメッセージが表示されたら、コピー元フォルダーの階層を下げる、コピー先フォルダーの階層を上げる、フォルダー名やファイル名を短くするなどしてください。

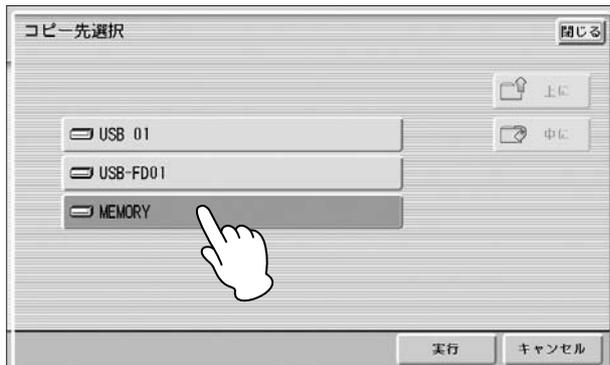
#### NOTE

フォルダー内に正常に読み書きできないデータがある場合、コピーの途中で終了します。

#### 注意

操作の途中でメディアを抜くと、データが失われるおそれがあります。画面に「メディアを抜いてください」と表示されるまでは、絶対にメディアを抜かないでください。

### 3 「MEMORY」を選びます。



### 4 [実行] ボタンを押します。

コピーしたいソングが、エレクトーンの内部メモリーにコピーされます。画面には「コピー元のメディアを抜いてください」というメッセージが表示されます。

### 5 コピー元のメディアを抜きます。

コピー元のメディアを抜くと、画面には「コピー先のメディアを挿入してください」と表示されます。

### 6 コピー先のメディアを挿入口に差し込みます。

### 7 ソングのコピー先を指定します。

コピー先の指定については11ページをご覧ください。

### 8 コピー先の指定が終わったら、[実行] ボタンを押してソングコピーを実行します。[キャンセル]または[閉じる] ボタンを押すと、コピーせずにもとの画面に戻ります。

コピー先のソング名は、もとのソング名と同じになります。コピー先に、もとのソングと同名のソングがある場合、コピーしたソングは、「コピー元ソング名\_XXX (XXXには数字が入ります)」というソング名になります。

XGソングデータの場合は、コピー先にある同名のXGソングを上書きするかどうか確認を求めるメッセージが表示されます。[上書き]を選ぶと、コピー先のXGソングデータが上書きされます。

ソング名を変更したい場合は、18ページをご覧ください。



#### NOTE

コピーを中止したい場合は、[キャンセル]ボタンを押します。



#### 注意

プロテクトソングの移動中(手順4~8)は、絶対に電源を切らないでください。データが失われるおそれがあります。



#### NOTE

プロテクトソングの移動中に[キャンセル]を選ぶと、「移動中のソングを元の場所に戻します。メディアを抜いてください。」というメッセージが表示されます。手順4で内部メモリーに移動したソングを、再び元のメディアに戻します。画面の指示に従って操作してください。

#### データの大きいプロテクトソングを移動する場合

別のUSBフラッシュメモリーにプロテクトソングを移動する場合は、移動したいソングをエレクトーンの内部メモリー (MEMORY)にいったん移動したあとで、移動先のUSBフラッシュメモリーに移します。しかし、プロテクトソングの容量が大きい場合には、内部メモリーに入りきれないことがあります。この場合は、何回かに分けてソングを移動することになり、手順6から8を繰り返す必要があります。画面の指示に従って操作してください。

## ソングの削除

ソング内のデータを削除します。レジストレーションデータだけ、演奏データだけを削除したり、ソング自体を削除したりできます。ここで説明する方法は、ELS-01/01C/01Xで作成したレジストレーションデータや演奏データ、XGソングの削除です(EL-900などのELシリーズのソングは、削除できません)。

- 1 削除したいデータの入っているソングを選択します。  
ソングの選択については11ページをご覧ください。
- 2 画面右上の[ツール]ボタンを押して、ツールページを表示させます。
- 3 画面の[削除]ボタンを押します。  
「削除しますか?」というメッセージが表示されます。  
削除したいソングのソング名が画面に表示されていることを確認します。削除するソングを変更したい場合は、[キャンセル]ボタンを押して、ソングを選び直します。
- 4 削除したいデータ(レジストレーション、ソング)のボタンを押すと、選択したデータが削除されます。



- **全体削除**：ソング全体を削除します。
- **レジストのみ削除**：ソング内のレジストレーションデータだけを削除します。
- **演奏のみ削除**：ソング内の演奏データだけを削除します。

[キャンセル]を押すと削除せずにもとの画面に戻ります。

**削除したいデータがフォルダー、レジストレーションだけのソング、演奏データだけのソング、プロテクトソング、XGソングの場合：**



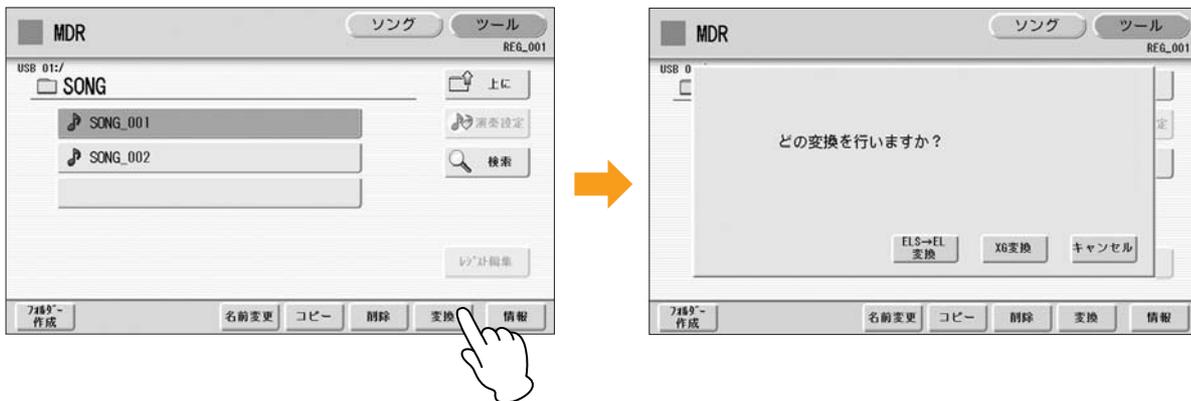
[削除]を選ぶと削除が実行されます。[キャンセル]を選ぶと、削除せずにもとの画面に戻ります。

## XG変換機能

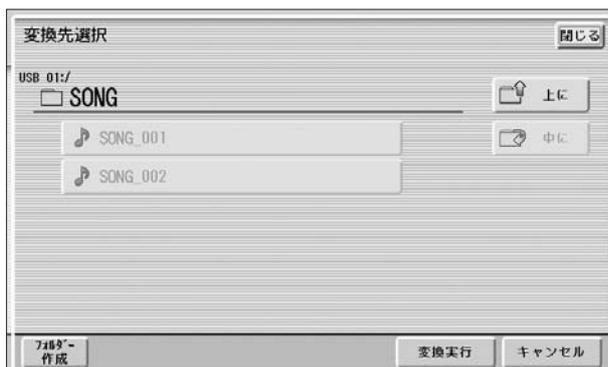
XG変換機能は、ELS-01/01C/01Xで演奏したデータ(録音したソング)を、XG機器などで再生できるように変換する機能です。ただし、XGソングに変換した場合、音がもとのデータと異なって聞こえることがあります。

変換する場合は、メディアの空き容量が十分あることをあらかじめご確認ください。プロテクトソングはXG変換できません。

- 1 XG変換したいソングを選択します。  
ソングの選択については11ページをご覧ください。
- 2 画面右上の[ツール]ボタンを押して、ツールページを表示させます。
- 3 [変換]ボタンを押します。  
「どの変換を行いますか?」というメッセージが表示されます。



- 4 [XG変換]ボタンを押します。  
下の変換先選択画面が表示されます。



- 5 (必要に応じて)XG変換後のソングの保存先を変更します。  
保存先の変更については11ページをご覧ください。

- 6 [変換実行]ボタンを押します。  
画面に「変換後のデータを確認しています・・・」というメッセージが表示され、ソングの再生が始まります(エレクトーンのXG音源で再生します)。最後まで再生すると、元の画面に戻ります。



### NOTE

変換後のデータ確認中に鍵盤を弾いたり、パネルスイッチを押したりすると、それらの操作が変換後のXGソング内に記録されます。



### 関連ページ

プロテクトソングについて(26ページ)  
フロッピーディスクドライブ  
UD-FD01の取り付け



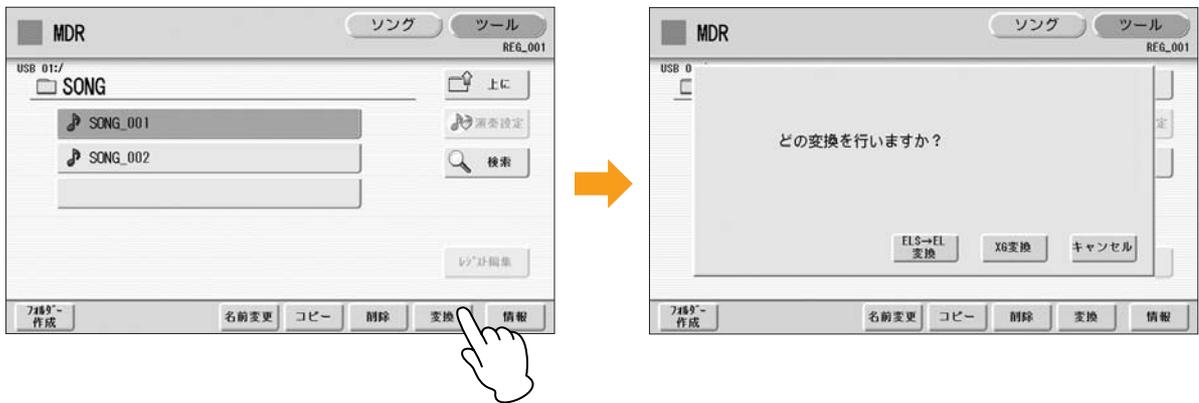
### NOTE

ユーザーリズムはELS→EL変換  
できません。

## ELS→EL変換機能

このエレクトーン用のソングを、EL-900などのELシリーズのエレクトーンで使用できるデータに変換して、フロッピーディスクに保存します。ただし、市販のデータやインターネットから購入したソングデータなどのプロテクトソングは、EL変換はできません。あらかじめ、別売のフロッピーディスクドライブ(UD-FD01など)を取り付けておく必要があります。

- 1 **ELシリーズの形式に変換したいソングを選びます。**  
ソングの選択については11ページをご覧ください。
- 2 **ツールページで[変換]ボタンを押します。**  
「どの変換を行いますか?」というメッセージが表示されます。



### NOTE

ソング名に、ELシリーズで使用  
できない文字(全角文字など)が  
入っている場合、ELシリーズで  
使用できない文字は「??」に置  
き換えられます。

- 3 **画面の[ELS→EL変換]ボタンを押します。**  
複数のレジストレーションデータが入っているソングを変換する場合は、レジストレーションデータの数と同じだけの空きソングが必要です。
- 4 **フロッピーディスクを挿入口に差し込み、画面上の[変換実行]ボタンを押します。**  
ELS→EL変換が実行されます。フロッピーディスクの容量が足りない場合は、ELS→EL変換はできません(画面にエラーメッセージが表示され、処理が中断されます)。

7

ミュージックデータレコーダー(MDR)

## EL→ELS変換機能

フロッピーディスクに入っているEL-900などのELシリーズ用のソングを、このエレクトーンで使用できるデータに変換して、USBフラッシュメモリーに保存します。あらかじめ、別売のフロッピーディスクドライブ(UD-FD01など)を取り付けておく必要があります。市販の楽譜に付属しているELシリーズ用のデータを、ELS-01/01C/01X用に変換することもできます。ただし、音やテンポなどがもとのデータと異なったり、ネクストソングがうまく変換されない場合があります。

市販のデータは、1つのソングにつき1度だけELS変換できます。変換したあとも、フロッピーディスクはそのまま使用できます。

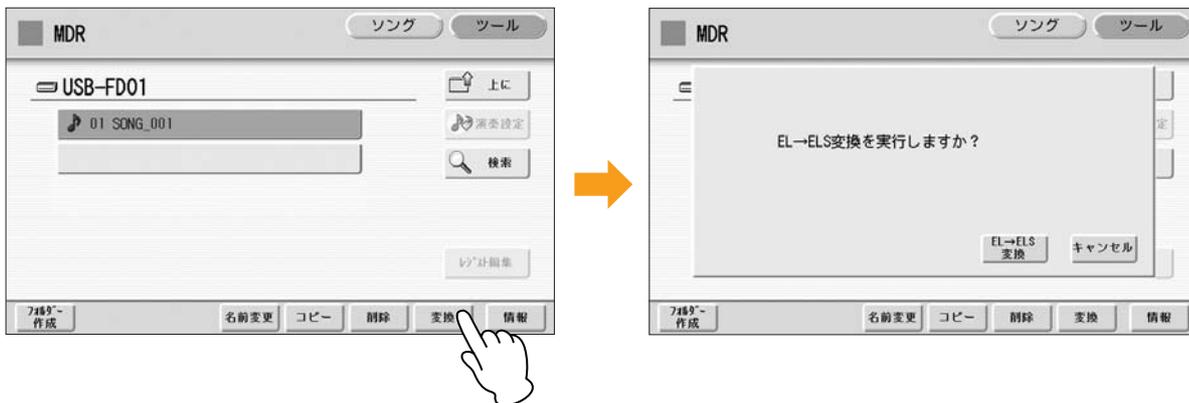


フロッピーディスクドライブ  
UD-FD01の取り付け



**NOTE**  
市販のデータをEL→ELS変換する場合は、フロッピーディスクのライトプロテクトタブをオフ(記録可能な状態)にしてください。

- 1 フロッピーディスクを挿入口に差し込み、ELS変換をしたいソングを選びます。ソングの選択については11ページをご覧ください。
- 2 ツールページで[変換]ボタンを押します。「EL→ELS変換を実行しますか?」というメッセージが表示されます。



- 3 画面の[EL→ELS変換]ボタンを押して表示される画面で、変換後のソングの保存先を指定します。  
変換後のデータをこのエレクトーンで使用するためには、変換先をUSBフラッシュメモリーにしておく必要があります。
- 4 画面上の[変換実行]ボタンを押します。  
EL→ELS変換が実行されます。ただし変換先メディアの容量が足りない場合は、処理が中断されます。

## ソング容量/メディアの残量の確認

ツールページで[情報]ボタンを押すと、メディアが選択されているときは空き容量(残量)を、ソングが選択されているときは容量や曲名、作曲者名などを表示します。表示される内容は、ソングによって異なります。

